

◆◆◆ グアム日本人学校から ◆◆◆

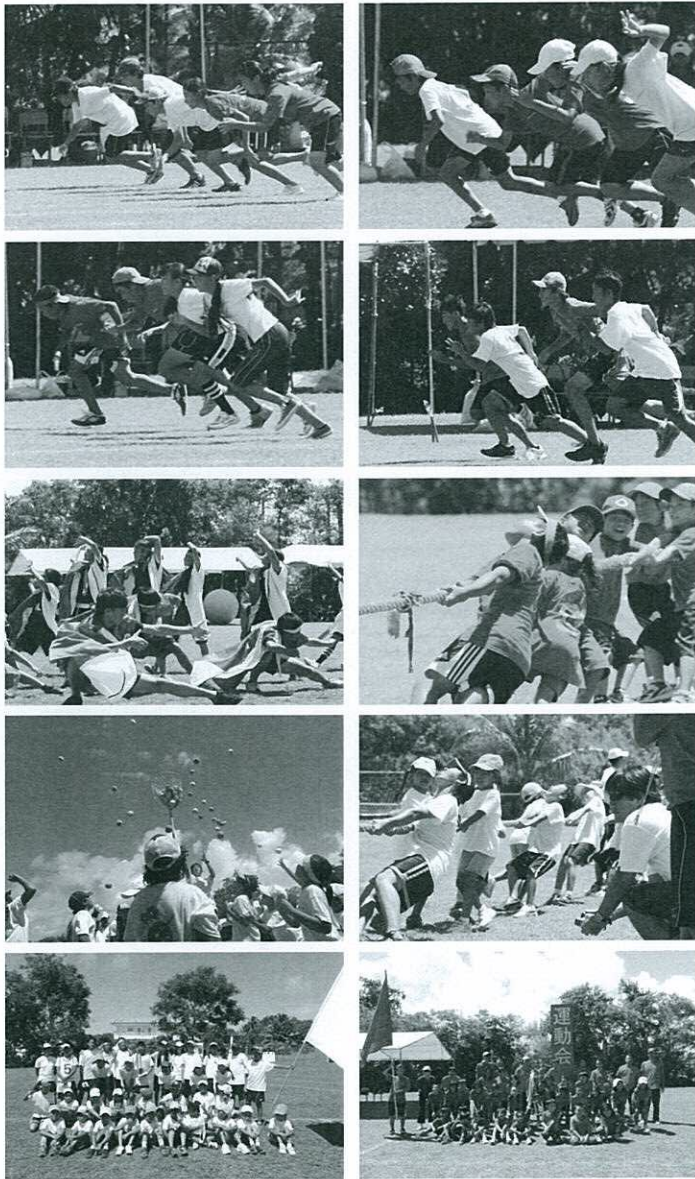
【運動会】

「Fight for the championship ～勝利の扉へ一直線～」のスローガンの下、今年もグアム日本人学校運動会が開催されました。

5月下旬から3週間にわたって、児童生徒と教師が一生懸命運動会練習に取り組んできました。児童生徒は学校行事に取り組む中でも大きく育ちます。運動会のような大きな学校行事では、本番はもちろん大切ですが、そこに至る過程での取り組みが児童生徒の成長を左右します。今年の運動会も、児童生徒を大きく成長させたことでしょう。

さて、その本番では、幼稚部をはじめ、小学部1年生から中学部3年生までの全員が力一杯自分の力を発揮しました。そして、幼稚部も含めた小中一貫校として、とても賑やかでバラエティに富んだ運動会となりました。

おいでいただきました保護者、来賓、地域の皆様、ありがとうございました。



◆◆◆ グアム補習授業校から ◆◆◆

【補習授業校と家庭教育】

補習授業校アドバイザー 市川 隆

幼稚部の年長の子どもが、朝の自由遊びの時に、「あした」という言葉を使っていた。私との会話であるから、使い方は正しく時間の概念をとらえていることが分かった。この子は、昨年英語を中心とした生活から幼稚部に入園してきた。当然、日本語の指示や問いかけには反応せず、本人ばかりか周りのものまでずいぶん戸惑いがあった。ところが、2か月ほどたつと、瞬く間に必要とする日本語での欲求表現、そして、指示や問いかけに反応できるようになったのである。その子が、いつからかわからないが、時間の概念をあらわす「あした」を正しく使うまでになっていた。担当する職員、そして、子どもたち同士の関係、何にもまして一日中日本語を使う、日本語環境に浸ることが日本語獲得を容易にしている要素と言える。そして、子どもが毎日毎日園でのことを日本語で表現するのだから、家庭での日本語環境も豊かになってきたことが考えられる。

同様に幼児期家庭で保護者より日本語の生活言語を身に付けてきた子ども達が補習校に入学してくる。補習校では、幼児期に身に付けた生活言語をもとに、今度は、学習言語を獲得し言語表現能力を身に付けるのである。では、子ども達の言語表現能力は、幼児期の生活言語を身に付けるのと同じくどんどん伸びていくのだろうか。否である。ある程度は、伸びるにしても多くが緩やかな伸びとなっている。これは、一体どうしてだろうか。子ども達が習得するのは学習言語であり、内容的に見てもかな文字などの語い、漢字、慣用表現、さらに、文法までが含まれており、その学習言語語彙の量は膨大である。また、別な大きな要因がある。それは、日本語環境に浸る時間が、短くなるのである。幼稚部、あるいは、全日制の子ども達は、日本語環境に浸る時間が長くなるが、補習校では、家庭でのわずかな日本語のやりとり、加えて、土曜日ごとのたった4時間しかない。しかも、一週間ごとの断続的表現活動であり、これでは自分から日本語での表現活動をしよという意欲・やる気のダウンはやむを得ないと言える。

では、子ども達の日本語の言語表現能力を高める手立てはないのだろうか。この問題のカギは、子ども自身と子どもの生活言語の基礎をつくってきた家庭にある。日本語環境の時間が極端に短くなる。だからこそ、意識的かつ意欲的に取り組めばよい。ただし、これはできるようでできない。容易ではない。だからこそ、表現活動の課題を設定しての課題解決学習をするしかない。スポーツがすべて、目標を設定してその目標に向かってのたゆまぬ練習を必要とする。目標設定・練習・成果の確認、つまり、スポーツと学習は同じステップで考えられる。さらに、大切なことは、子ども達の生活言語の生みの親である家庭からのたゆまぬ支援が子ども達の課題解決学習を継続、持続させるものとなっていることである。家庭の支援とは、単なる送り迎えのようなことではない。学習への見守りと励まし、アドバイスであり、「一緒に学ぶ」ということを意味している。この「一緒に学ぶ」という家庭の意識こそが子ども達の日本語活用能力を伸ばしていく鍵となっている。